

人獣共通感染症で死亡例 広がる動揺

「動物と適度な距離を」



コリネバクテリウム・ウルセランス菌 (厚生労働省提供)

犬や猫などから人間にうつるとされる人獣共通感染症「コリネバクテリウム・ウルセランス感染症」で国内初の死亡例が発覚し、ペットの飼い主らに動揺が広がっている。亡くなった福岡県の60代女性は猫の餌やりからの感染が疑われた。ペットや野良猫から人間にうつる病気が多く、専門家は「動物とは適度な距離を保って」と呼びかける。

専門家、飼い主に注意促す

「近所の野良猫は大丈夫か」。飲食店が多く、ネズミ対策として多くの野良猫がいる東京都台東区の保健所には16日、区民からそんな問い合わせが寄せられた。同区ではボランティアが野良猫の不妊去勢手術や餌やりを行い、「地域猫」として見守りを続ける。過去にはボランティアが猫にかまれ、その後、傷が悪化

病名	主な原因動物	主な症状
猫ひっかき病	猫、犬	発熱、脳炎
狂犬病	犬	発熱、昏睡(こんすい)
オウム病	インコ、文鳥	発熱、急性肺炎
トキソプラズマ症	猫	流産、リンパ節炎
カンピロバクター腸炎	犬、猫、小鳥	食中毒、胃腸炎
バスタツレラ症	猫、犬	肺炎、髄膜炎
Q熱	猫	発熱、頭痛、肝炎

ペット由来の主な感染症

- ノミやダニなどの駆除を行う
- 狂犬病などのワクチンを受けさせる
- 動物を触ったり、糞の始末をした後は必ず手を洗う
- 口移して餌を与えることは避ける
- 抱いて一緒に寝るのは避ける
- 飼い主の体調が悪いときは接触を控える

「コリネバクテリウム・ウルセランス感染症」の主な症例

発症年月	患者(在住)	症状	状況
平成13年2月	50代女性(千葉)	呼吸困難、のどに白色偽膜	猫20匹飼育
17年9月	50代男性(岡山)	左耳下腺部のはれ	飼育していた犬が皮膚炎
23年4月	50代女性(滋賀)	咽頭痛	猫14匹、犬7匹、ヤギ2匹飼育
27年9月	60代女性(東京)	発熱、鼻汁	猫3匹飼育。野良猫にも餌やり
28年3月	63歳女性(栃木)	呼吸困難で人工呼吸処置	猫7匹飼育
28年5月	60代女性(福岡)	呼吸困難。救急搬送され3日後に死亡	野良猫3匹に餌やり

した例もあった。台東保健所は「今回の感染症に限らず、動物からの感染症の対策は重要だ。ボランティア向けに講習会を開き、糞を片付けるなどの防止策を伝えていく」という。

加藤勝信厚生労働相はこの日の会見で「過度に懸念をおおってはいけませんが、しっかりと動物との

必要情報を知り、提供していく」と強調した。国立感染症研究所によると、平成29年11月末までに報告されているコリネバクテリウム・ウルセランス感染症の感染例は25件。多くはペットとして猫や犬を飼っていたり、野良猫に餌をやりたりするなど動物との

人獣共通感染症 人間と動物の双方が共通してかかる感染症で、全感染症の半数を占めるとされる。感染症法でリスクが最も高い「1類感染症」に指定されているエボラ出血熱やペストなど、致死率の高い感染症も多い。動物から直接感染するだけでなく、蚊やダニが媒介することもある。野良猫にかまれて重症熱性血小板減少症候群(SFTS)となり女性が死亡した例や、愛玩用の鳥から感染するオウム病で妊婦が死亡した例など、身近な動物から感染して死亡する例が国内でもまれに報告される。

動物から人間にうつる感染症は多いが、ペットの数や室内飼いの増加により、ペットから人への感染は増加傾向という。山口大共同獣医学部の前田健教授は「狂犬病がなくなった日本では、動物にかまれることの危険性が忘れられている」と指摘する。

犬や猫の多くが持つパストツレラ菌は、犬や猫には無症状だが、かまれたり引っかけたりして人間が感染すると肺炎や髄膜炎を起し死亡することもある。多くの動物がもつ寄生虫「トキソプラズマ」は妊婦が初めて感染すると、胎児に障害が出る恐れがある。麻布大獣医学部の宇根有美教授

は「飼い主は動物自体の健康管理をしっかりしてほしい」と話す。「家族関係が希薄になる中、ペットと人との距離感が近くなっている」と指摘する日本大医学部の荒島康友助教は「唾液など動物の体液は感染源だ」として、口移して餌をやったり同じ布団で寝たりするなどの過剰な接触は避けるよう注意を促している。(道丸摩耶)

せきやくしゃみ ■ 抗生物質が有効

Q 患者の死亡が確認された「コリネバクテリウム・ウルセランス感染症」にかかると、どんな症状が出るのか

A 犬や猫などペットが感染すると、くしゃみや鼻水などの症状が出る。人が感染しても、のどの痛みやせき、くしゃみなど風邪のような症状が出るほか、皮膚炎を起こすこともある。治療薬はあるが、重症化すると呼吸困難となり死亡することがある。動物に触れた後に体調が悪くなったら、早めに医療機関に行くことが大事だ。人から人への感染は国内では確認されていない。

Q 海外での事例はどうか
A 英国などでは、日本より多くの患者が報告されていて死者も出ている。乳房炎や関節炎にかかった牛の生乳からの感染も確認されている。
Q 人が感染した場合、治療法はあ

るのか

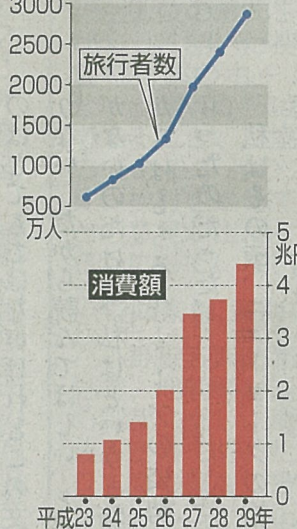
A 抗菌薬(抗生物質)が有効とされている。また、子供の定期接種である3種混合(4種混合)ワクチンには、コリネバクテリウム・ウルセランス感染症に似たジフテリアのワクチンが含まれており、このワクチンが予防に有効と考えられている。

Q 野良猫や野生の動物は大丈夫か
A コリネバクテリウム・ウルセランス感染症に限らず、ペットや家畜、哺乳類以外のダニや蚊などに刺されて感染する感染症も多い。屋外で活動する際はなるべく皮膚を露出しないようにすることが大事だ。動物には症状が出ず人間だけ発症する感染症や、妊婦が感染すると重症化したり、胎児に影響を与えたりする感染症もある。治療法が確立されていない感染症もあり、体が弱っているときは特に動物との接触は避けた方がよい。

症状・治療法は?

台

訪日外国人旅行者数と消費額の推移



5年連続過去最高

観光庁が16日発表した訪日外国人消費動向調査によると、平成29年の訪日外国人旅行者による買い物などの旅行消費額(速報値)は前年比17.8%増の4兆4161億

産経新聞出版の本

〒100-8077 東京都千代田区大手町1-7-2 産経新聞社8階 ◆ご注文はお近くの書店またはブックサービス tel.0120(29)9625へ



第32回正論大賞

「勝利をもたらす小さなその戦術使用の名人で、ロシア研究の第一人者が

戦争の捉え方

クリ、世界



北海道大

